
ゼロのナニカ

唐辛子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼロのナニカ

【Nコード】

N5625Y

【作者名】

唐辛子

【あらすじ】

ルイズが召喚で呼び出したのは、男の子か女の子か分からない子どもであった。その子は自らを「アルカ」と告げる。ハンター×ハンターとゼロの使い魔のクロスです。

「宇宙の果てのどこかにいる、私の下僕よ！ 神聖で、美しく、強力な使い魔よ！ 私は心より求め、訴えるわ！ わが導きに応えなさい！」

ここは、ハルケギニア大陸の国家・トリステイン王国にあるトリステイン魔法学院。

その中庭にて、強く呼びかけていたのは、トリステイン屈指の名門貴族の三女であるルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエールであった。

彼女が力を込めて杖を振るうと、目の前が爆発して耳をつんざく轟音と土煙が中庭を覆った。

その爆発の威力は物凄く、それだけで一個小隊をも壊滅しかねない程であった。

当然、その場にいた者たちは軽いパニックに陥る。

暫くしてその場が落ち着くと、彼女を見守っていたコルベールという教師とクラスメイトたちは爆発の中心に何かを発見する。

「おい、誰かいるぞ！」

誰かがそう口を開くと、爆発を起こした張本人であるルイズはぐさま爆発の中心へと駆け寄って、そこに現れたものを確認しに行った。

やがて煙の膜が薄くなり、その中を目視出来るようになると、ルイズはその正体への驚きで呆然と立ち尽くす。

そこにいたのは、まるで人形のような子供であった。

「……え？」

ルイズは思わずそう口にする。

先程行ったのは使い魔の儀式で、将来のパートナーとも呼べる存在を召喚するものであった。

通常は動物などの非人間的なものが呼ばれる筈であるが、彼女が呼んだのは明らかな人間。

それも子供であった。

その衝撃は並大抵のものではない。

ルイズは改めて、その子を凝視する。

ここいらでは珍しい黒く艶やかな長い髪で、中性的な顔立ちがその子を男の子だか女の子だか分からないようにしていた。

ここらでは見たことも無い、何処か民族的な衣装を身に纏っており、何処か高貴な感じも見受けられる。

その子はその場へ鎮座し、じっとルイズを見つめていた。

どうしたものかと戸惑うルイズへ向けて周囲から一つ、また一つと声が沸き起こった。

「おい、ルイズが子どもを召喚したぞ！」

「あれってまさか貴族？」

「これってやばいんじゃないの？」

ざわめく周囲。

ルイズは思わずコルベールへ向き直る。

「み、ミスタ・コルベール！や、やり直しを要求します！」

「……コホン、それはなりません。ミス・ヴァリエール」

コルベールは一つ咳払いをすると、ルイズへ使い魔の変更は認められないという旨を義務的に告げた。

ルイズは一度はガツカリするも、すぐに思い直し、背に腹は代えられぬとその子へ向き直って寄って行った。

「ハア……ねえ、ちょっと、あんた」

「……………」

「名前よ、名前は何て言うの？」

「……アルカ」

その子は自らをアルカと名乗った。

ルイズはもう一度ため息を吐いた後、キツと歯を食い縛り、杖をアルカに向けた。

「……我が名はルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエール。五つの力を司るペンタゴン。この者に祝福を与え、私の使い魔となせ」

ルイズは呪文を唱え、杖をアルカの額に置くと、そのまま口づけを交わす。

するとその直後、アルカの左手が光を発した。

ルーンが刻まれている瞬間であった。

ルイズ自身はよく知らないが、ルーンが刻まれる瞬間はどの生物もただならぬ様子であると聞いたことがあるので、きっと激痛が走るのであると彼女は推測していた。

だが、アルカは顔色一つ変えずにそれをただじっと見つめているようであった。

（……やっぱり、ただの噂だったのかしら？）

目の前の子どもはどう見ても幼く、もしも激痛が走るのであれば、その痛みには耐えられないだろうとルイズは思っていた。

だが、その素振りもないのであれば、やはりその説はただの眉唾な噂であつたのだろう。

ルイズはそう結論づける。

かくして、彼女の元に人間の使い魔という奇妙なパートナーが誕生した。

これまで魔法を失敗してばかりいた彼女にとって、アルカは初めての成功である。

嬉しくない筈はなかった。

アルカはそんなルイズをじっと見つめると、突然彼女へ話し掛ける。

「ルイズ、肩車して」

「……え？」

突如のおねだり。

いくら子どもとはいえ、体格的にはルイズとそう変わらないアルカを肩車するのはルイズには辛い。

それにアルカは一応使い魔であるから、本来であれば主人であるルイズにそんなことは言えない筈である。

ルイズは厳しく対応することにした。

「ダメよ」

きっぱりとそう告げる。

ここで甘やかしては主人の威厳に関わってくる。

アルカは残念そうな顔をした後、再びルイズに話し掛けた。

「ルイズ、抱っこして」

「ダメ」

「ルイズ、おんぶして」

「ダメって言ってるでしょ」

「ルイズ、たかいたかいして」

「だからダメだって……」

ルイズが、そう告げようとした瞬間。

ルイズの体は一瞬で潰れてしまった。

ミンチ状態になった彼女の遺体がその場に無造作に落ちる。

沈黙。

そして……。

「うわあああああああああああ……！！！！！！！！」

目の前でクラスメイトの一人がズタズタのミンチにされたのを見て、周囲の者たちは皆完全なるパニックへ陥った。

教師のコルベールまでもが、目の前の出来事に対してただ呆然と立ち尽くすことしか出来ないでいた。

その場は阿鼻叫喚の地獄と化す。

その中で、アルカは一人じっとその場を見つめていた。

その瞳はまるで闇。

底知れぬ深い闇であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5625y/>

ゼロのナニカ

2011年11月17日16時17分発行